

年次別研修内容（行動目標）

○消化器内科

研修期間 3 年間（3 年以上が望ましいが、短期でも可）

取得できる専門医：日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本内視鏡学会専門医

1 年次（卒後 3 年後）

- ・主な消化器疾患の病態生理、臨床像、治療法を理解し、急性期に初期の対応ができる。
- ・基本的な検査手技（上下部内視鏡、透視、超音波、腹水穿刺、肝生検等）、治療手技（食道・胃静脈瘤硬化療法、閉塞性黄疸・肝胆膵感染症に対する経皮的ドレナージの留置、肝細胞癌に対するラジオ波焼却治療など）を修得する。

2 年次（卒後 4 年目）以降

- ・一般的な消化器疾患の診療を自力で行えるようにするとともに、救急疾患にも対応できるようにする。
- ・検査手技（ERCP、血管造影等）、治療手技（内視鏡的ポリープ・粘膜切除術、緊急内視鏡による消化管出血の止血、肝胆膵疾患に対する経乳頭的治療、肝動脈寒栓療法）を修得する。

○血液内科

研修期間 3 年間（3 年以上が望ましいが、短期でも可）

修得できる専門医：日本内科学会専門医、日本血液学会専門医

1 年次（卒後 3 年目）

- ・基本的な手技（骨髄穿刺、腰椎穿刺、中心静脈カテーテル挿入）が施行できる。
- ・主な血液疾患の基礎的な知識を修得し、検査値から鑑別すべき疾患を挙げることができる。
- ・癌化学療法に伴う副作用を知り、適切な対応を行うことができる。

2 年次（卒後 4 年目）以降

- ・造血器悪性腫瘍の鑑別診断ができ、治療方針の決定を行うことができる。
- ・緩和治療の知識を修得し、終末期に対応することができる。

○糖尿病内科

研修期間 3 年間 (3 年以上が望ましいが、短期でも可)

取得できる専門医：日本内科学会専門医、日本糖尿病学会専門医

1 年次 (卒後 3 年目)、2 年次 (卒後 4 年目) 以降共通

1 糖尿病の診断

- ・糖尿病診断基準の理解と臨床応用
- ・糖尿病の病型分類の理解と臨床応用
- ・糖尿病の重傷度の評価
- ・糖尿病合併症の診断と重傷度の評価

2 糖尿病の治療

- ・個々の患者に対する適切な治療目標の設定
- ・食事療法、運動療法、薬物療法 (経口血糖降下剤およびインスリン) の理論と実際、効果の評価
- ・糖尿病合併症治療の理論と実際、効果の評価
- ・低血糖の知識と対応

3 患者指導・教育

- ・糖尿病療養チームへの参加、評価
- ・インスリン自己注射・血糖自己測定指導

○呼吸器内科

研修期間 3 年間 (3 年間以上が望ましいが、短期でも可)

取得できる専門医：日本内科学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡専門医、日本アレルギー学会専門医

1 年次 (卒後 3 年目)

1 呼吸器疾患の診断

- ・呼吸器疾患患者の問診、視診、聴打診に慣れ、患者の状態を把握し、診断・治療のために必要な情報を的確に得られるような実力を身につける。
- ・慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息等アレルギー性呼吸器疾患、間質性肺炎、細菌性肺炎、非定型肺炎、肺癌などの主要な呼吸器疾患について、典型的な画像の特徴を説明できる。
- ・気管支鏡、局所麻酔下胸腔鏡検査についてファイバーの操作に慣れ、気管支分岐がわかる。

2 呼吸器疾患の治療

- ・各疾患の標準治療の理解を深める。
- ・人工呼吸器、非侵襲的陽圧換気療法の適応と操作方法を理解する。
- ・在宅酸素療法の導入、管理ができる。
- ・胸腔ドレナージができる。
- ・胸膜癒着術ができる。

2年次（卒後4年目）以降

- ・気管支鏡検査では、BAL、TB LBまで施行できる。
- ・人工呼吸器の管理について、導入から離脱まで患者の状態に合わせた器械設定ができ、全身管理ができる。
- ・肺癌や間質性肺炎等主要疾患の治療方針を立てることができる。

○循環器内科

研修期間3年間（3年以上が望ましいが、短期でも可）

取得できる専門医：日本内科学会専門医、日本循環器学会専門医

1年次（卒後3年目）、2年次（卒後4年目）以降共通

- ・基本的な手技（心肺蘇生、静脈ルートの確保、S-Gカテーテルの挿入と管理）が施行できる。
- ・基本的な検査（心電図検査、心臓超音波検査、運動負荷心電図、RI検査）が施行できる。
- ・循環器疾患に対し、プライマリーケアから慢性期までの対応、管理を理解する。
- ・心臓カテーテル検査の介助を行い、検査を経験する。希望に応じて造影手技を修得し、将来循環器医を目指す者はカテーテル・インターベンションの助手を経験した後、独立したインターベンション術者を目指す。